

大和合金 新分析装置を導入 検査時間短縮、コスト削減

銅合金の鑄鍛造メーカー大和合金（本社・東京都板橋区、社長・

萩野茂雄氏）は11月から、これまで外部に委託していた一部検査を内部で行えるようになるため、製造コストの削減や生産スピードのアップにつながる。製造を担当する埼玉

県のグループ会社、三芳合金工業に導入。島津製作所製で金属中の多元素を同時に精度よく分析できることが特徴で、品質管理に適した機種。検査時間は非常に短く試料のセット後、試料ナンバーを入力後10秒強で結果が得られる。

連続鑄造工場内に検査専用の建屋を設けており、既に据付は完了している。現在調整を行っている段階で、来月には稼働させたい考えだ。試験運用中の連続鑄造ラインでの品質確認に用いるほか、バッチ式の炉を用いた現行の鍛造製品群についても利用していく方針。

萩野茂雄氏は11月から、これまで外部に委託していた一部検査を内部で行えるようになるため、製造コストの削減や生産スピードのアップにつながる。製造を担当する埼玉

成分の幅がさらに広がる。

連続鑄造工場内に検査専用の建屋を設けて

おり、既に据付は完了している。現在調整を行っている段階で、来月には稼働させたい考えだ。試験運用中の連続鑄造ラインでの品質確認に用いるほか、バッチ式の炉を用いた現行の鍛造製品群についても利用していく方針。

